

2018年度 博士前期・後期課程

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 看護科学専攻

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/kango-kagaku/>



Doctoral & Master's Program in
Nursing Science

筑波大学は、研究利便性の高い筑波研究学園都市に位置し、国際レベルの教育・研究の拠点となることを目指しています。

人間総合科学研究科は、人間の生物身体的・教育福祉的・精神文化的の3側面を視野に入れながら、人間に関わる総合科学の確立を目標に、人間に関する多面的知識を基礎にして、優れた先端的研究やユニークな学際的研究ができる能力を備えた研究者の育成、と同時に人間の諸問題に現実的かつ柔軟に対処できる能力を有する高度専門職業人の育成をめざしています。



教育研究上の理念・目的

わが国の保健・医療・福祉は、医療技術の進歩・少子高齢化・生活水準の向上などによる急速な環境の変化により、高度化・専門化してきています。これに伴って、看護では、科学的根拠に基づいた的確な判断力・高度な知識ならびに技術を有する専門職業人を育成し、保健・医療・福祉の一翼を担うことが求められています。



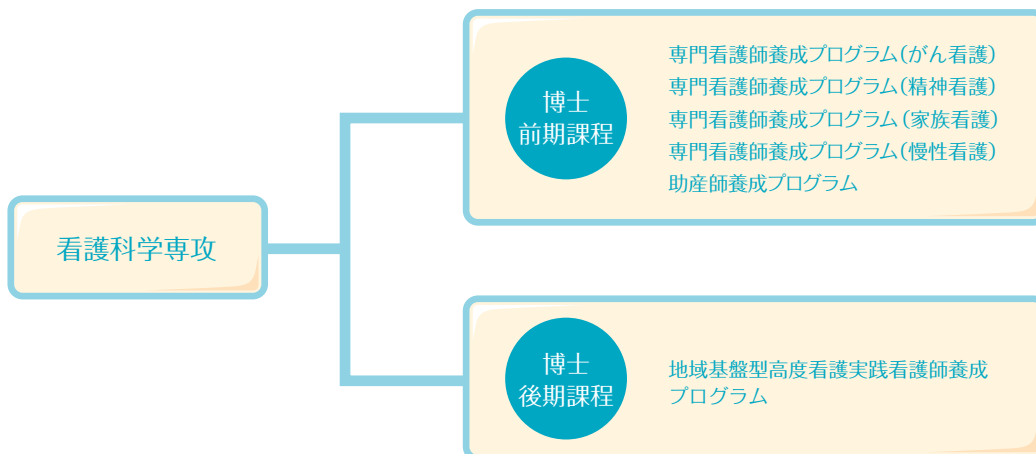
■博士前期課程

学際的及び国際的な視点に基づき、看護を科学的に探究する人材を育成することを目的とします。また、この目的を達成するために、修了後の進路に対応した以下のプログラムを設定します：①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラム。

■博士後期課程

看護学の高度専門職者・管理者、教育者・研究者、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる能力を育成します。さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる能力を育成します。

■看護科学専攻の構成



博士前期課程

教員名		研究内容	CNS など
安梅 勅江	教授	国際発達ケア、エンパワメント科学	
岡山 久代	教授	周産期のメンタルヘルス、ウィメンズヘルス看護学に関する研究	※ 5
KATSUMATA Asako Takekuma	教授	国際看護、プライマリヘルスケア、看護倫理、高齢者ケア、看護管理	
日高 紀久江	教授	リハビリテーション看護	※ 4
水野 道代	教授	がん看護、緩和ケア、QOL	※ 2
森 千鶴	教授	精神科リハビリテーション看護、看護学教育	※ 3
浅野 美礼	准教授	看護過程と情報科学	
大宮 朋子	准教授	公衆衛生看護学、健康生成モデル、逆境を生きる、学校・産業保健	
川野 亜津子	准教授	周産期の健康支援と家族発達支援、精神的・身体的ストレスマネジメント	※ 5
山海 知子	准教授	公衆衛生学、生活習慣病の疫学、産業保健	
柴山 大賀	准教授	慢性疾患の自己管理教育、量的研究	※ 4
涌水 理恵	准教授	子どもおよび家族への看護	※ 1
阿部 吉樹	助教	神経筋疾患患者の看護、慢性痛、産業保健・産業看護	※ 4
小澤 典子	助教	小児看護、家族看護	※ 1
菅谷 智一	助教	精神科看護、児童・思春期精神科看護、活動集団療法	※ 3
杉本 敬子	助教	国際看護、周産期のメンタルヘルスケア	
出口 奈緒子	助教	学校保健、健康社会学	
TOGOBAATAR Ganchimeg	助教	Pregnancy and child birth, Quality of care, International health	
萩野谷 浩美	助教	患者のストレス、看護ケア技術、看護教育	※ 4
福澤 利江子	助教	周産期ケアの国際比較、ドゥーラサポート	
牟田 理恵子	助教	がん看護、緩和ケア、終末期の家族支援	※ 2
山下 美智代	助教	がん患者の看護、安楽	※ 2

※ 1：家族支援 CNS、※ 2：がん看護 CNS、※ 3：精神看護 CNS、※ 4：慢性疾患看護 CNS、※ 5：助産師養成

博士後期課程

教員名		研究内容
安梅 勅江	教授	国際発達ケア、エンパワメント科学
岡山 久代	教授	周産期のメンタルヘルス、ウィメンズヘルス看護学に関する研究
KATSUMATA Asako Takekuma	教授	国際看護、プライマリヘルスケア、看護倫理、高齢者ケア、看護管理に関する研究
日高 紀久江	教授	リハビリテーション看護学、慢性看護学に関する研究
水野 道代	教授	がん看護・緩和ケア・QOLに関する研究
森 千鶴	教授	精神看護学に関する研究



博士前期課程【2018年度】

■ 修業年限：2年

■ 取得学位：修士(看護科学)

■ 修了要件：2年以上在学し、授業科目について所定の30単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格する。

<p>専 門 基 礎 科 目</p>	<p>※●看護科学論、●看護コミュニケーション論、※看護コンサルテーション論、※●看護学研究法、●保健統計学、国際看護学、※看護倫理学、※看護教育論、※フィジカルアセスメント、※病態生理学、※臨床薬理学、●看護教育学、●地域母子保健論、●女性と健康、●女性の精神保健学、●生殖生命倫理学、●周産期のフィジカルアセスメント</p>	<p>医療技術の進歩と疾病構造の変化による多様な医療ニーズに応えられる幅広い知識を持った豊かな人間性と科学的思考を促進する。</p>
<p>専 門 研 究 領 域</p>	<p>●：発達支援看護学特論、発達支援看護学演習Ⅰ、発達支援看護学演習Ⅱ、発達支援看護学演習Ⅲ、発達支援看護学演習Ⅳ、助産学特論Ⅰ、助産学演習Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学演習Ⅱ、助産学特論Ⅲ、助産学演習Ⅲ、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ</p> <p>※1：発達支援看護学特論、養育期家族援助学、家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習、家族看護学特論、家族生活アセスメント学、家族アセスメント/インターベンション学、家族看護学演習/家族看護実践学、家族看護学基盤実習、家族看護学展開実習、家族看護学統合実習</p> <p>※：がん看護学特論Ⅰ、がん看護学演習Ⅰ、基礎腫瘍学特論、臨床腫瘍学特論、がん看護学特論Ⅱ、がん看護学特論Ⅲ、緩和ケア特論、がん看護学演習Ⅱ、がん看護学実習Ⅰ、がん看護学実習Ⅱ、がん看護学実習Ⅲ</p> <p>※3：健康障害看護学特論、健康障害看護学演習、精神看護学特論Ⅰ、精神看護学特論Ⅱ、精神看護学特論Ⅲ、精神看護学演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅱ、精神看護学実習Ⅰ、精神看護学実習Ⅱ、地域健康システム看護学特論、地域健康システム看護学演習、国際地域ケア特論、国際地域ケア演習、国際看護学特論、国際看護学演習、療養調整看護学特論、療養調整看護学演習</p> <p>※4：慢性看護学Ⅰ特論、慢性看護学Ⅱ特論・演習、慢性看護学Ⅲ特論、慢性看護学Ⅲ演習、慢性看護学Ⅳ特論、慢性看護学Ⅴ特論、慢性看護学Ⅴ演習、慢性看護学実習Ⅰ、慢性看護学実習Ⅱ</p>	<p>以下に示す専門研究領域に関する高度な看護介入法を、臨地での実践や看護理論・モデルをふまえて、科学的に究明するための科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●周産期のメンタルヘルス・ウィメンズヘルス ●子どもおよび家族への看護 ●がん看護、緩和ケア ●精神科リハビリテーション看護、看護師のメンタルヘルス ●公衆衛生学、産業保健、学校保健、ヘルスプロモーション ●国際発達ケア、エンパワメント科学 ●国際看護、プライマリヘルスケア、高齢者ケア、ケアの質評価 ●慢性疾患患者の看護、リハビリテーション看護、看護情報学
<p>共 通 科 目</p>	<p>●インターンシップ、※●看護科学特別実習、※●看護科学特別研究</p>	<p>個人、家族、地域、環境をつなぐシステム・アプローチにより、高度専門職業人の育成を目指すための科目</p>

■※が付された科目は、専門看護師：Certified Nursing Specialist(CNS)教育課程科目に対応したシラバスになっています。※1：家族看護 CNS、※2：がん看護 CNS、※3：精神看護 CNS、※4：慢性看護 CNS

■●が付された科目は、助産師課程養成プログラムとなっています。

■科目は変更になる場合があります。

博士後期課程【2018年度】

■ 修業年限: 3年

■ 取得学位: 博士(看護科学)

■ 修了要件: 人間総合科学研究科看護科学専攻に3年以上在学し、専門基礎科目の中から必修科目7単位を含む10単位以上、さらに各専門分野の15単位を履修し、研究計画書の審査、博士論文の審査及び最終試験に合格する。

専門基礎科目	応用看護科学 応用統計学 看護研究方法論 看護学教育 チーム医療実践論 臨床教育技法指導演習	専門的な分野での卓越した研究を実践するため、研究・教育者としての基本的な資質向上に焦点化すると同時に、さらにそれぞれの学生の専門を深める。
専門科目	看護科学特論Ⅰ	ヘルスプロモーションの視点から、地域や国際社会における健康課題の明確化と健康実態に応じた看護介入を通して、健康増進のための看護スキルやプログラムの開発、地域におけるヘルスケアシステム開発を目指す。
	看護科学特論Ⅱ	人の精神の健康と障害を多角的にとらえ、対象者の特性を考慮した精神の健康の維持・増進に関する看護実践を目指す。
	看護科学特論Ⅲ	親と子の健康を促進あるいは阻害する要因を明確にしなが、母子関係確立やそれを継続するための支援等、女性と子どもの健康促進を目指す。
	看護科学特論Ⅳ	生涯を通して、個人、家族、地域社会、国際社会におけるケアシステムの開発、次代に向けた看護支援情報ネットワークと健康回復力向上の療養環境デザインを目指す。
	看護科学特論Ⅴ	病や障がいとともに生きる人の心身の健康や療養環境上での問題の明確化を図り、健康の維持・増進、回復を目指した看護介入方法や看護システムの開発を目指す。
	看護科学特論Ⅵ	対象の健康問題を的確にアセスメントし、包括的視点に立って立案した看護援助の効果を科学的に評価するために必要な知識や研究技法を学び、慢性的な疾患や障害を抱える患者や家族の健康問題の構造および看護介入、介入効果の測定、サポートプログラムの開発等を目指す。
	高度実践看護学特論	高度な看護実践の基礎となる科学的根拠を自ら作り、臨床現場で活用するための方法論を、討議や演習を通して実践的に探求させる。
	高度実践看護学演習	地域における包括的・継続ケアの実践において、多職種医療チーム内で連携を図りながら、疾病予防から療養過程全般に及ぶ的確な臨床判断と医療管理、治療的な看護介入が行える知識・技術を教授する。
	看護科学演習Ⅰ	看護科学発展のためのリーダーシップ能力や自立して研究活動や論文作成ができる能力を養うために、各自が設定した研究課題について国内外の論文を検討し、系統的・論理的に研究目的と研究方法を立案・発表し、建設的に討議をすることで論文作成の技術を探求させる。
	看護科学演習Ⅱ	看護科学発展のためのリーダーシップ能力や自立して研究活動や論文作成ができる能力を養うために、各自の研究課題の独創性や新奇性について、根拠をもって発表し、建設的に討議をおこなうことで、研究遂行能力を探求させる。
研究倫理学演習	看護研究者として必要な研究倫理に関する基礎的な知識、研究を推進するための研究の倫理的な配慮について具体的な事例を通して学び、実践力を習得する。	
看護科学研究	看護科学に関する特定の研究課題について、看護の視点から自立した研究活動を行い、科学的根拠に基づいた創造性・独創性の高い論文作成を教授する。	

■ 地域基盤型高度看護実践看護師養成プログラムを開講しています。

■ 科目は変更になる場合があります。

Graduate School of Comprehensive Human Sciences

Master's Program in Nursing Science

Admission Policy

1) Academic goals

The academic goals of the Master's program in nursing science are to 1) foster researchers who can scientifically analyze nursing practice through interdisciplinary and international perspectives, and who possess a diligent attitude as researchers, to 2) prepare students to utilize highly specialized knowledge and skills in nursing in a practical fashion, and to 3) prepare students to utilize the basic skills required for educators who support education in the nursing science.

2) Applicants expected

An applicant expected is one who strives to become a nursing professional who possesses highly specialized knowledge and skills in nursing, which are practical and supported by scientific evidence; and who strives to become an educator/researcher who takes a leader role in nursing practice.

3) Basic policy for entrance examinations

Academic performance and personality will be evaluated based on written and oral (interview-style) tests in the field of your specialty (nursing) and English. Special entrance examinations will be used to select adult students (e.g., those who have a job).

4) Schedule of entrance examinations

Students entering the Master's program in April in the next academic year are required to take the entrance tests in August.



Master's program in Nursing Science

Faculty	Detailed Description of Research Field
OKAYAMA Hisayo KAWANO Atsuko	- Research on the mental health of a maternal period, and the women's health nursing - Maternal and Infant Health Care, Women's Health and Stress
WAKIMIZU Rie OZAWA Noriko	- Child Health Care Nursing, Family Health Nursing, Development Nursing, Child Health Care Nursing, Family Nursing †Family Health Nursing (CNS)
MIZUNO Michiyo MUTA Rieko YAMASHITA Michiyo	- Cancer Nursing, Palliative Care, Quality of Life - Family support at end of life †Cancer Nursing (CNS)
MORI Chizuru SUGAYA Tomokazu	- Psychiatric and Mental Health Nursing, Nursing Education, Child and Adolescent psychiatric nursing, Activity Group Therapy †Psychiatric Mental Health Nursing (CNS)
ANME Tokie	- International community care and Lifespan development: Empowerment Sciences
SANKAI Tomoko OMIYA Tomoko DEGUCHI Naoko	- Public health, Population-based epidemiological study on life-style related diseases, Preventive medicine, Occupational health, School health, occupational health and community health nursing. Areas related to health sociology and positive health, School health, Health sociology
KATSUMATA Asako Takekuma FUKUZAWA Rieko TOGOOBAATAR Ganchimeg SUGIMOTO Keiko	- Global health nursing, Primary Health Care, Nursing ethics, Gerontological nursing, Safety and quality of care, Leadership/administration in nursing, Global health nursing, Mental healthcare for pregnant and postpartum women, Maternal and child health, Quality of care, International health, Cross-national comparison of women's perinatal experiences, Doula support
HIDAKA Kikue SHIBAYAMA Taiga ABE Yoshiki ASANO Yoshihiro HAGINOYA Hiromi	- Rehabilitation Nursing, Chronic illness care, Quantitative methods, Care for patients with neuromuscular disease, Chronic pain, Occupational health nursing, Nursing Informatics, Support for Nursing Experts, Evaluation of Stress, Nursing Skill, Nursing Education †Chronic Care Nursing (CNS)

Doctoral Program in Nursing Science

Admission Policy

1) Academic goals

The academic goal of the Doctoral Program in Nursing Science is to foster world-class leaders in the fields of clinical practice, management, education, research and administration who not only possess specialized knowledge and skills in nursing, but also have the ability to verifying nursing practice using a highly studious mind, and also have the ability to develop new skills in nursing and new methods of education and research based not only on specialized area in nursing, but also on interdisciplinary and scientific perspectives.

2) Applicants expected

Applicants expected are: students who seek to obtain skills for systemizing methods of education and research, which are the basis of creation of new knowledge and technical development for the next generation, by utilizing the abilities of nursing practice and research, which was developed in the Master program; as well as students who aim at becoming educators, researchers, nurses and managers in skilled clinical nursing as a bridge between practice and theory.

3) Basic policy for entrance examinations

Applicants' qualities and abilities to study in the Doctoral Program in Nursing Science will be evaluated based on examinations as well as submitted documents, written and oral tests of knowledge on English and nursing science.

4) Schedule of entrance examinations

Students entering the Doctor's program in April in the next academic year are required to take the entrance tests in August.

Objectives of student development

The academic goal of the Doctoral Program in Nursing Science is to foster world-class leaders in the fields of clinical practice, management, education, research and administration who not only possess specialized knowledge and skills in nursing, but also have the ability to verifying nursing practice using a highly studious mind, and also have the ability to develop new skills in nursing and new methods of education and research based not only on specialized area in nursing, but also on interdisciplinary and scientific perspectives.



Doctoral Programs in Nursing Science

Faculty	Detailed Description of Research Field
ANME Tokie	<ul style="list-style-type: none"> - Health Promotion and Community Empowerment - Plasticity of Lifespan Development and Environment - Cross-Cultural Perspectives on Community Care and Health-Social Services
HIDAKA Kikue	<ul style="list-style-type: none"> - Rehabilitation Nursing - Evaluation of Nursing techniques - Intervention study of nutrition and swallowing
KATSUMATA Asako Takekuma	<ul style="list-style-type: none"> - Global health nursing, Primary Health Care - Nursing ethics, Gerontological nursing, Safety and quality of care - Leadership/administration in nursing
MIZUNO Michiyo	<ul style="list-style-type: none"> - Study on Quality of Life of Cancer Patients - Intervention Study of Cancer Survivors and the Family - Study on Palliative Care to Cancer Patients
MORI Chizuru	<ul style="list-style-type: none"> - Rehabilitation Nursing for Schizophrenic Patients - Nursing Care for Drug and Alcohol Addicts - Study on Nursing for Eating Disorders
OKAYAMA Hisayo	<ul style="list-style-type: none"> - Research on the mental health of a maternal period - Women's health nursing

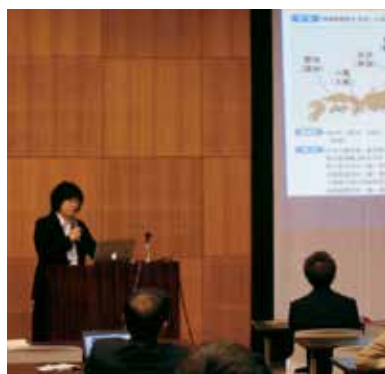
1-1-1 Tennodai

Tsukuba-City, Ibaraki 305-8575 JAPAN

Phone & Fax : +81-29-853-3403 (Office of Nursing Science)

e-mail : kanngojimu@md.tsukuba.ac.jp

Nursing Science, Graduate School of Comprehensive Human Sciences,
University of Tsukuba



ACCESS

利用

上野から約1時間、ひたち野うしく、荒川沖または土浦で下車、各駅から「筑波大学中央」行バスで約30分（「筑波大学病院入口」または「追越学生宿舎前」で下車）

つくばエクスプレス利用

秋葉原駅から快速で約45分、つくば駅で下車、つくばセンター1番のりばで「筑波大学循環（右回り）」または「筑波大学中央」行バスに乗り換え、約10分（「筑波大学病院入口」または「追越学生宿舎前」で下車）

高速バス利用

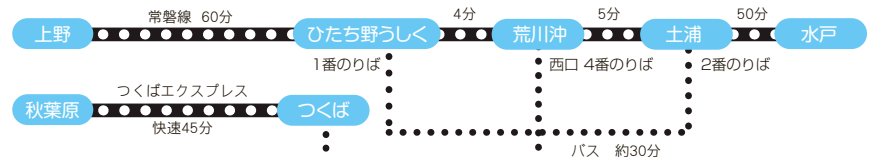
東京駅八重洲南口からつくばセンター行きの高速バスで約1時間、つくばセンターで「筑波大学循環（右回り）」または「筑波大学中央」行バスに乗り換え、約10分（「筑波大学病院入口」または「追越学生宿舎前」で下車）

航空機利用

- 成田空港: 空港→「つくばセンター」行バス（約100分）・つくばセンターから「筑波大学循環（右回り）」または「筑波大学中央」行バス（約10分）
- 羽田空港: 空港→「つくばセンター」行バス（約120分）・つくばセンターから「筑波大学循環（右回り）」または「筑波大学中央」行バス（約10分）



● 電車



● 高速バス



● 自動車



お問い合わせ

筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻事務室

電話・ファックス 029-853-3403 / kanngojimu@md.tsukuba.ac.jp /

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/kango-kagaku/>